

# ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ ◆ 思 い つ く ま ま に ◆ ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

農 林 統 計 係 清 水 久 義

納計業務、主として農林統計に関する仕事を担当して4年目になりますが、時あたかも1975年、今年は統計調査の当たり年である。巨人は打てないけれど統計課は大当り。2月1日調査の「農業センサス」（並行して「茨城県農業基本調査」。）があり、5月15日調査の「事業所統計」、そして、10月1日現在では、今年の花形「国勢調査」が行われます。

この「国勢調査」について、課内でささやかれている言葉があります。『1度は経験してみろ、2度とは経験するな』、——ここに至っては私も好むと好まざるとにかかわらず国勢調査を経験することになりそうです。

それはともかくとして、統計課に4年も籍を置くといろいろと考え、悩むことがあります。それは統計（統計課）の役割は何なのかということです。広辞苑によれば「統計とは、社会及び自然のあらゆる現象を研究するための重要な補助手段で、数学的には数理統計学として論ぜられる……。」とある。これでは余計迷うことになる。

次に、茨城県職員録をめくって統計課の分掌事務を見ると、

- 1 統計調査に関すること。
- 2 統計思想の普及に関すること。
- 3 調査統計事務の連絡調査に関すること。
- 4 統計資料の編さんに関すること。
- 5 行政資料の保存及び閲覧に関すること。

これら5つが統計課の主な仕事であることがわかる。

とにかく、60人ほどいる統計課の職員は統計資料を作る（誤解を招く言葉かもしれないが）側にあると言えます。

指定統計は別にして、単県の統計調査となると、調査票の設計から、説明会、とりまとめ、集計、調査結果の公表までが主な仕事になるわけで、苦心して解析し、「報告書」にまとめても、ほとんどの場合、それら調査結果（情報）の積極的な利用に従事していないという歯

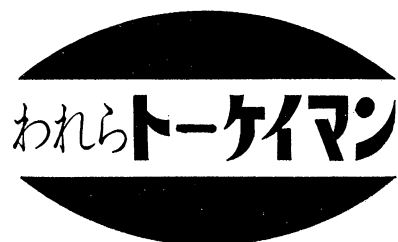
がゆさがあります。また、苦勞してまとめた情報は、これを用いて何らかの結論を出そうとする他の人達のためであるということを考えてみますと、多少の不満が残ります。でも、それでいいのです。——統計は縁の下の力持ち——統計課から公表される統計資料は、行政上あるいは企業経営上の重大な決定を下すためにきっと役立つのだから、と言い聞かせて仕事をしていけば励みになります。

その他に年々ひどくなっている「調査環境の悪化」は憂慮すべき問題だと思われまふ。

まず、このためには、各省庁あるいは各課が個別に行っている統計調査の重複を避けることも解決法です。（経費の節約にもなる。）また、最近の電話の目覚しい普及を考えると、銀行で実施しているようなオンラインシステムを統計調査に利用できないものだろうかと思うことがあります。

あらかじめ配布された統計調査票によって、コードとともにデータをコンピューターに直結した電話器で、ピッ、ポッ、パッとプッシュしてもらおう。そのデータは中央装置で集計されて、印字されて出て来る。また、必要ならば、各家庭にいて必要な情報が電話器から音声応答方式で即座に得られるというような時代が、近い将来やってくるものと思われまふ。（実施に当ってはプライバシー等の問題が種々あるが）

以上、統計業務に関することについて、日頃感じていることを思いつくままに書いてみました。



## 消 費 統 計 係 檜 山 隆

万葉の昔より、富士山はその秀麗な容姿とあいまって歌にも詠まれ、北斎の絵に代表されるように絵画にも描がかれ、また紀行文やその他の文にも書かれ、まさに我が国のシンボリック的存在である。そしてまた、日本の多くの山がそうであるように信仰の対象として崇められてきた。

富士山は史上度々噴火したが、1707年（宝永4年）爆裂して宝永山を東南中腹に作ってから現在まで静止している。富士山は、立山、白山とともに日本三名山として数えられているが、その秀麗な姿において他の二つの山を凌駕している。

富士山が初めてその崇高なる頂きを人間に踏ませたもうたのは、大化改新以前の西暦933年、役ノ小角えん こづねという者が登ったのが最初とされている。これが最初の富士登山といえる。以来、現在まで富士登山への動機の変遷はあれ、多くの人々にその地を許してきた。富士山への登山道は、御殿場口、吉田口、須走口、富士宮口があるが、その登山道を10合に分けている。この1合というのは、昔の登山者は日夜を徹して登るため油を点さなければならず、そのランプを点してから消えてしまうまでの距離を1合と定めたといわれている。時間にして1時間ぐらいらしい。

現在、夏山シーズンともなると何万という人達が富士の頂上を目指して登るが、その動機は昔からの信仰登山は陰をひそめ、富士山だけがもつ「日本一の山」という絶対的の高度への志向性ゆえのことは容易に想像できる。

しかし、純粋な意味での登山対象の価値、とりわけ夏山の魅力ということでみると、その標高の絶対的優位性加味してみても、その地位はを不本意ながら後退をよぎなくされるのではないだろうか。それは、富士山の「単調性」にも起因しているが、夏山を飾るべき要素がないからだろうと思う。夏山の魅力は、雪渓であり、そこから流れて沢を作り登山者の咽の渇きをうるおすべきすばらしく冷たい水であり、登山者の心をなごます高山植物の類であり、稜線をわたってくる涼風であり、そこから湧き上がる雲であり、黒々とせまる岩の重さである。



（右から二人目が筆者）

今夏、富士登山の機会があって登ってきたが、富士山には夏山独特の魅力を感じさせるものなど決してなかった。そして大沢くずれのような醜態をぬけぬけとさらしていた。単調なまでの登行の連続と頂上での喧噪さ。頂上での喧噪さには、そこにおわしますこのはなさくやひめ木花咲耶姫もさぞお困りであらせられようと気の毒(?)に思ったほどである。

富士山が、登山の対象として栄誉ある地位に返り咲くことができるのは冬富士である。白い衣裳に身をまとい、気高き姿に変身する冬であり、夏の醜態を雪のペールで隠し登山者をいざよいながらそのペールを駆使しておとし入れようとしている厳しいまでの冬富士である。木花咲耶姫のヒステリーの厳しさは、世の女性の比ではあるまい。皿などというちゃちなものでなく、一瞬にしてテントごと人間を飛ばし、その命を奪うほどである。山は英語では女性名詞を使うのも、山のもつヒステリックな面からもうなずける。

私も去年、2月の厳冬期に登ったことがある。その素晴らしさに十分満足した。夏と違ってバスは運行されておらず、安易に五合目まで運んでくれはしない。富士吉田から入ったが、北富士演習場の鉄柵の側を通り、馬返しを越えて登る。この時期には五合目の佐藤小屋だけが土日だけ宿泊可能である。天気にも恵まれ、抜ける様な青空の登下行が始まる。小気味よいほどアイゼンがきく。が一瞬の油断もおろそかにできない。風が一時ピタリとやむ。その直後、突風が起り飛ばされまいとピッケルを突き刺す。この動作が遅れバランスをくずして滑べろものなら、カチンカチンに凍りついた大沢が死の滑り台に変わる。富士山で一番こわいのは、この突風である。大

沢上部の氷が青白く光って不気味だ。頂上は、夏の雑沓さがウソの様。聞えるのは、風のウナリ声ばかり。まさしく木花咲耶姫の御座にふさわしい。

子供に富士山を描かせる時、きまってあのギザギザの線を入れる。冬富士の雪線である。私達の富士山の心象風景は常に雪のいただいた秀麗な富士の姿が、固定観念としてあるからであろう。

# 新 着 資 料 案 内

下記の資料は、8月中に行政資料室に到着した主なものです。このほか、年鑑・年報・月報・各種計画書・報

告書・法令・教養・参考書・雑誌など数多くきておりますので御利用下さい。

行 政 資 料 名	内 容 年	規 格		発 行 所 (者)
		判	頁	
<b>中央官公庁関係</b>				
住民基本台帳人口移動報告年報	49	B5	84	総理府 統計局
全国物価統計調査報告	〃	〃	71	〃
法人企業投資動向調査報告	50	〃	26	経企庁 調査局
明日をひらく農業経営	48	A5	325	関東農政局統計情報部
工作機械設備等統計調査報告	〃	A4	449	通産省 調査統計部
昭和49年紙・パルプ統計年報	49	B5	113	〃
昭和50年4～6期の鉱工業生産活動	50	〃	124	〃
通産省 生産統計(月)	50.8	〃	152	〃
昭和48年申告所得税の実態	48	〃	56	国税庁 総務課
<b>茨城県関係</b>				
小規模事業所給与実態調査報告	49	B5	33	統 計 課
茨城県統計職員調査報告	50	〃	30	〃
茨城県職員録	〃	A5	384	人 事 課
市町村公共施設の現況	49	B5	229	地 方 課
県民の声	〃	〃	60	広 報 課
失業保険業務概要	〃	〃	46	雇 用 保 険 課
昭和50年茨城県蚕糸業統計	50	〃	71	蚕 糸 課
昭和49年度研修概要	49	〃	112	自 治 研 修 所
〃のあゆみ	〃	〃	57	人 事 委 員 会 事 務 局
<b>県内市町村関係</b>				
出島村村勢要覧	50	A4	48	出島村 役場
茨城県都市統計書	49	B5	35	都市統計事務協議会
<b>都道府県関係</b>				
統計いわて(月)	50.8	B5	8	岩手県 統計調査課
昭和49年神奈川県商業	49	〃	95	神奈川県 〃
大型小売店統計調査結果報告	〃	〃	108	〃
神奈川の統計(月)	50.8	〃	22	〃

行政資料名	内容年	規格		発行所(者)
		判	頁	
昭和48年度 県民所得推計報告	48	B5	95	千葉県統計課
〃 毎月勤労統計地方調査年報	49	〃	43	〃
〃 千葉県統計年鑑	〃	〃	358	〃
〃 千葉県の商業	〃	〃	173	〃
〃 東京都行政資料収録	〃	A5	308	東京都統計部
〃 毎月勤労統計調査結果報告	〃	B5	68	山梨県統計課
わたしたちのくらし	〃	B6	105	静岡県 〃
昭和49年 生産・在庫・指数	〃	B5	93	愛知県 〃
昭和48年 福井県統計年鑑	48	〃	349	福井県 〃
〃 県民所得	〃	〃	89	和歌山県 〃
〃 富山県統計年鑑	〃	〃	369	富山県 統計調査課
〃 県民所得推計報告書	〃	〃	58	奈良県 調査課
昭和49年 毎月勤労統計地方調査報告書	49	〃	76	〃
府民の消費と貯蓄の動向	50	〃	80	大阪府 統計課
統計 京都 (月)	50・8	〃	32	京都府 〃
昭和49年 島根県生産指数	49	〃	54	島根県 〃
島根県統計百年史	M.4~ S.47	〃	432	〃
昭和49年 県民の生活と意識	49	〃	127	滋賀県 〃
統計 おかやま (月)	50・8	〃	25	岡山県 統計調査課
広島県統計月報	〃	〃	32	広島県 統計課
昭和48年度 愛媛県民所得統計	48	〃	118	愛媛県 統計調査課
高知県人口・社会・移動実態調査	〃	〃	62	高知県 統計課
〃	49	〃	35	〃
昭和48年度 県民所得推計結果報告	48	〃	88	徳島県 〃
農業情報	50	〃	59	〃
昭和48年度 県民所得統計	48	〃	86	山口県 〃
<b>会社・団体等関係</b>				
日立市の経済動向	49	B5	76	日立商工会議所

## 統計ニュース

### — 10月の主な行事 —

- |                                  |               |
|----------------------------------|---------------|
| ○1日～9日 国勢調査実査指導                  | ○17～11月5日     |
| ○2日～3日 農業センサス総合検討会(宮城県)          | 国勢調査調査書類収集、審査 |
| ○3日～4日 法人企業投資動向調査ブロック会議<br>(新潟県) | ○18日 統計の日     |